

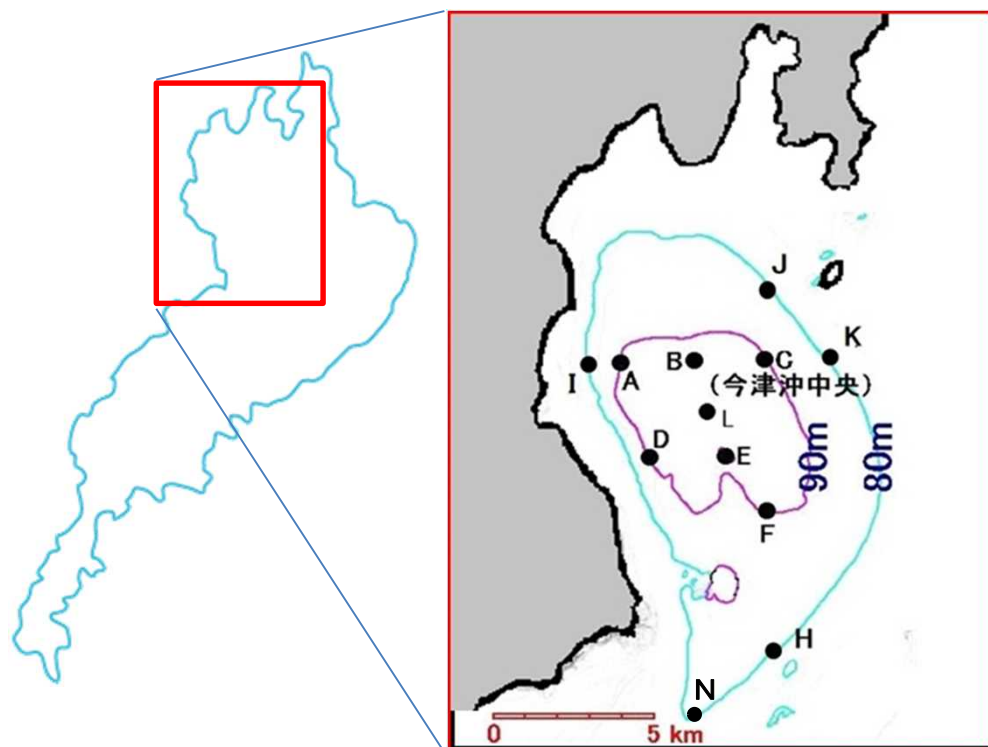
北湖底層DO調査結果（速報）

すいおんやくそう

北湖では、例年春季から初冬にかけて水温躍層が形成され、上層と下層の水の対流がなくなるため、底層の**溶存酸素(DO)**が低下し、晩秋に最も低くなります。その後、冬季に湖水の全層循環が起こり、底層まで酸素が供給されDOが回復します。

滋賀県では、北湖の底層DOの状況を把握するモニタリング調査を実施していることから、その結果をお知らせします。

調査地点



今津沖第一湖盆中央(水深90m)
およびその周囲の調査地点

C、F、L点: 定期調査

A、B、C、D、E、F、L: 補足調査

湖底直上1mを調査

令和6年度の北湖底層DO調査結果（速報）

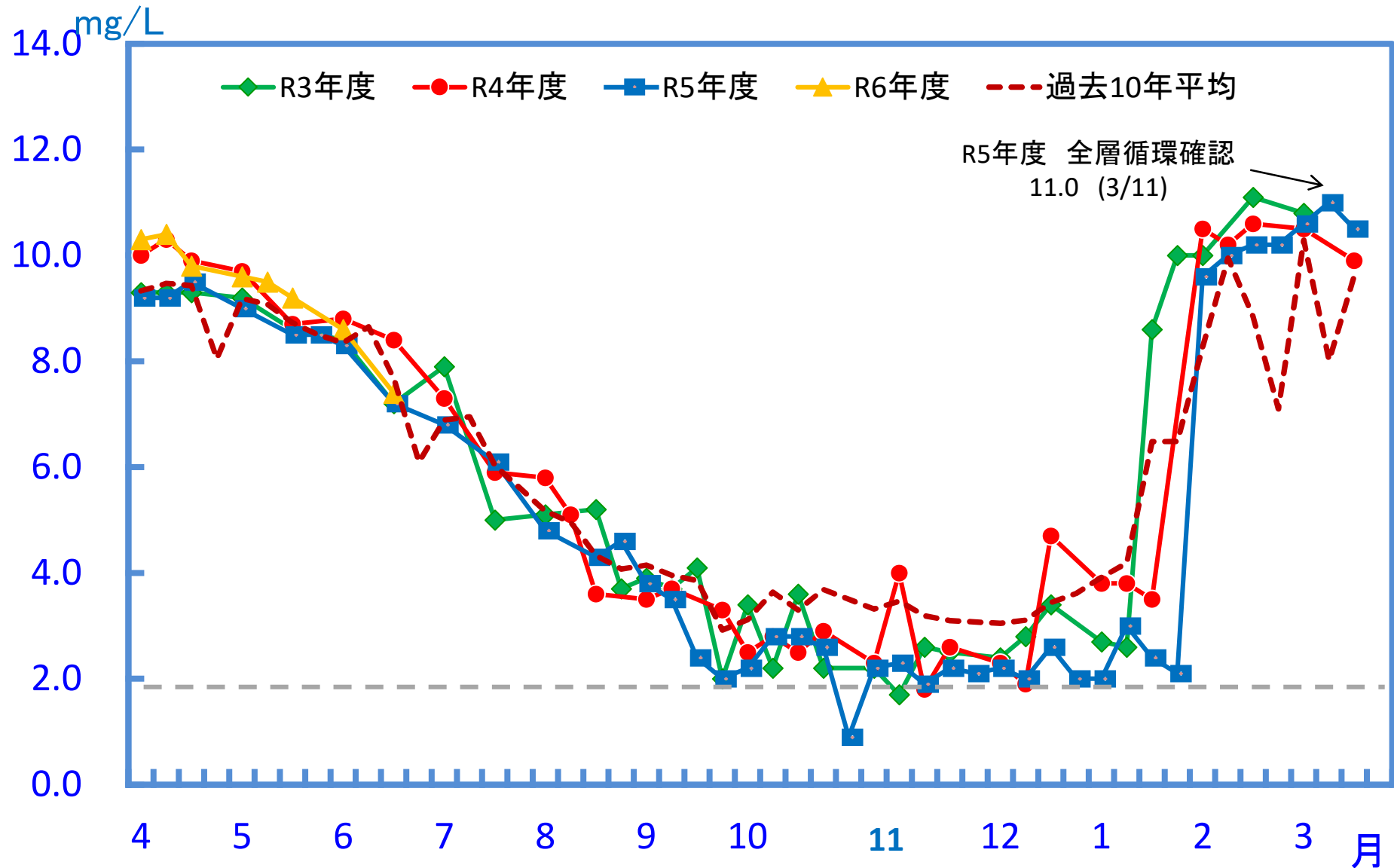
単位：mg/L

調査日 調査地点	4月			5月			6月	
	4/8	4/15	4/22	5/7	5/14	5/20	6/3	6/17
A		10.4				9.1		7.6
B		10.3						
C(今津沖中央)	10.3	10.4	9.8	9.6	9.5	9.2	8.6	7.4
D		10.3				9.1		7.5
E		10.3						
F	10.2	10.2	10.2	9.5		9.4	8.6	8.3
L(第一湖盆中央)	10.4	10.3	10.2	9.2		9.2	8.8	7.1
K(水深約80m)		10.7						

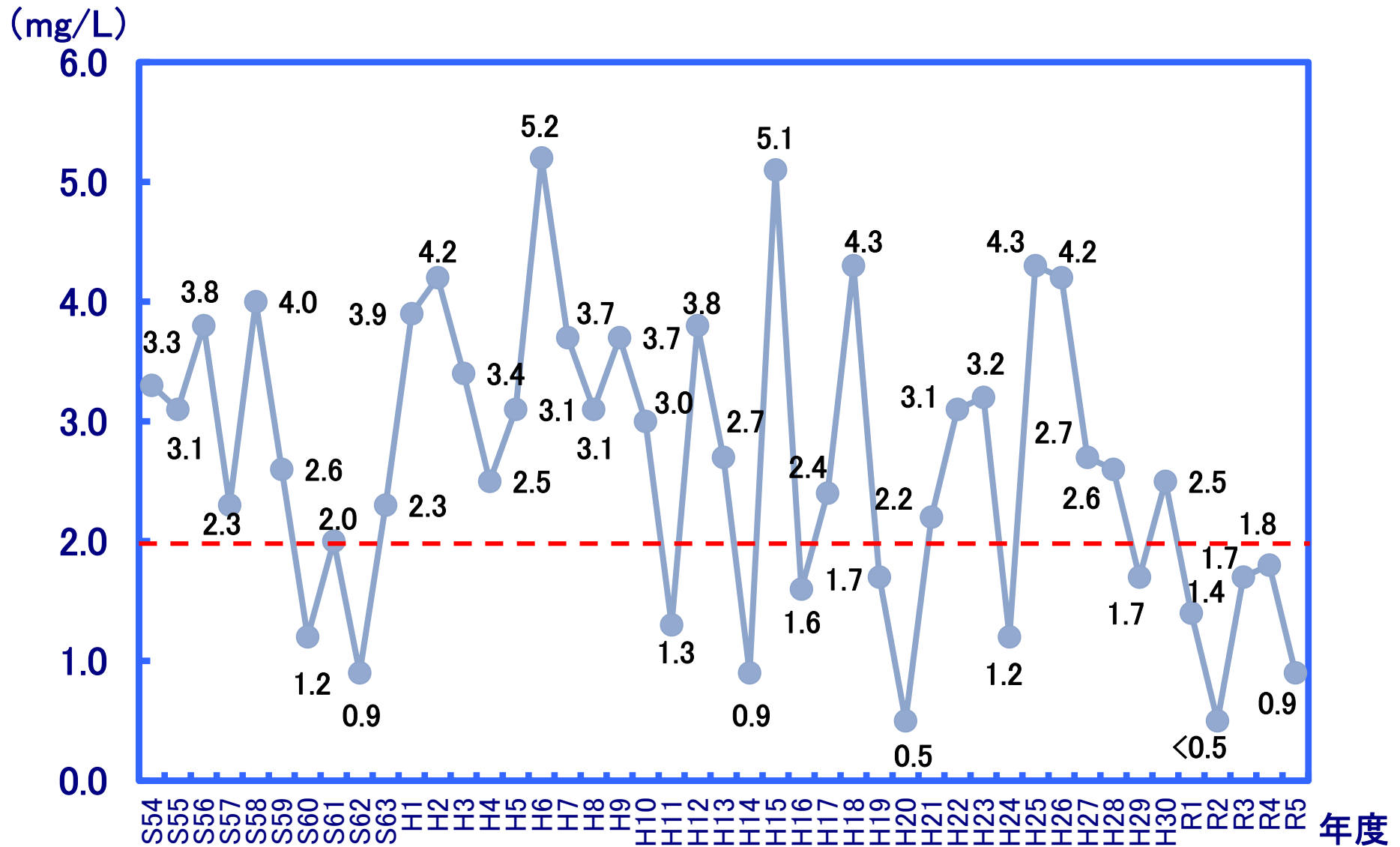
注1：表中の網掛けは、生物への影響が見られる目安である2 mg/Lを下回った結果を示しています。

注2：風などの気象条件や底層DOの状況に応じて、地点数や範囲を変更することがあります。

C点における底層DOの経月変動



C点における底層DOの年度最低値



※H18以前は月2回、H19以降は月3～4回の調査頻度
 データ：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター